

株式会社サユウ

横手市柳田字新藤166-7

自動車部品の解体・仕分け作業の効率化により、環境負荷に配慮した作業を実現し、国内外への自動車部品販売を拡大

【事業計画名】 荷役効率改善による環境負荷の低減と自動車メーカーの困り込み事業



導入した自動車解体用切断機



自動車解体用切断機を使用した解体作業の様子

取り組みの経緯

サユウは横手市では最も老舗となる創業45年目の自動車リサイクル企業である。車種を問わず使用済み自動車を引き取って解体し、ドアやエンジンなど再利用可能な部品はリサイクルパーツとして販売。鉄・銅・アルミニウムなどは金属資源としてリサイクルにまわしている。

同社では人口減少にともない自動車の引き取り台数が減少傾向にあるなか、他の解体業者との差別化をはかる一環で、大手自動車メーカーの一部に全部利用解体事業者の認定登録を行っていた。

全部利用解体登録は有能なリサイクル業者の証である反面、解体自動車1台ずつのプレス・計量が必要となり、作業効率が大幅に悪化する。運搬のためにプレス品をトラックに積込む工程の効率を改善し、他の自動車メーカーの全部利用解体ニーズを取り組むことで、安定した収益基盤の確立が可能になると考え、本事業に取り組んだ。

実施内容

建機メーカーの協力を得て、試験期間を1ヵ月ほど設けて特殊グラブ荷役機械のデモ機により積載効率改善効果の検証を行った。検証の結果、自動車解体用切断機を導入することで少ない切断回数で効率的な作業が進められることを確認した。また、重機本体は定期的に最新モデルに機種交換した方が環境負荷の低減が期待されたため、当初計画時の購入からリースに変更した。

自動車解体用切断機を導入したことで、解体時間は全部利用解体の場合は2割程度、連続解体(1台ずつリサイクル率を算出する必要が無い)の場合は半分程度に減少した。解体作業時間の短縮により、切断工程に要する人員1名を他の作業に回すことが可能となった。リサイクルパーツの取り外しや解体車両の再配置にまわすことで、全体の作業効率が大幅に改善した。

事業の成果

本事業取り組み後間もなく、鉄スクラップ相場が暴落し、世界的に金属需要が大きく冷え込んだ。同社もその影響を受け、金属類のリサイクル事業は損失を被ることとなったが、事業内容の見直しをはかり、リサイクルパーツのネット販売のウェイトを高めたことで、事業の効率化がはかられ、収益率が向上した。

佐藤社長は「スマートフォンの普及にあわせ、ネットオークションの取引量が拡大している。バンパーなどは色や品番が合えば中古で欲しいという方も多い。リピーターも多く、当社の出品ページを『お気に入り』に入れてくれる方も多いと思う」と話している。



リサイクルパーツが並ぶ工場内部



エンジンのリサイクルパーツ



バンパーのリサイクルパーツ

当社の企業理念は「常に時代の潮流を読み取り既成概念に捉われず、新たな道を切り拓いていく」「地球環境や地域社会に対し、自分たちができる最大限の努力と貢献を惜しまない」です。

かつて、新しいものをどんどん買い替えていくことが美德とされていた時代がありましたが、現在はあらゆる面でリサイクル・地球環境・省エネについて多くの方々が取り組んでいます。私どもの業界が今の時代に必要とされていることを実感しながら、少しでも地球環境の保護と社会貢献に役立つためにメッセージを発信し続けます。



代表取締役
佐藤 勇輝さん

今後の活動予定

近年は国内外への自動車部品販売に力を入れているが、海外販売ではマレーシアを中心に貿易輸出が増えている。佐藤社長は「現在、マレーシアは自動車中古部品の拠点となっており、同国を経由しアフリカやヨーロッパへ部品が流通している」と語る。

また「以前は大都市圏への進出も考えたが、ネット販売の業績拡大にともない考えを変えた。横手市は地方だが、だからこそ広い土地があり空き倉庫も多くある。地元のこうした資源を有効活用できるうえ、ネットであればお客様は全国にいる。この状況を活かして発展していきたい」と語る。



株式会社サユウ

代表者	代表取締役 佐藤 勇輝
設立	平成8年4月
資本金	1,000万円
従業員数	23名
業種	自動車リサイクル事業
TEL	0182-33-2627
FAX	0182-35-1125
URL	sayu.co.jp